

前立腺癌神経内分泌転化症例におけるゲノム解析と臨床経過についての検討

はじめに

当院および神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野、またその関連施設では、前立腺癌のなかでも神経内分泌転化の患者さんを対象に研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

1. 研究概要および利用目的

当院および神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野、またその関連施設では、尿路生殖器悪性疾患に対する加療を日々行っております。そのなかでも前立腺癌は泌尿器癌の中でも最も頻度が高い癌です。一般的に前立腺癌は進行が遅く、ホルモン療法が奏効するために予後がよいとされてきました。しかし、ホルモン療法の効かなくなった去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)への治療は限られているので、予後は不良といわれています。CRPCの中でも特に予後不良のタイプとして神経内分泌前立腺癌(NEPC)があります。今までは約2%と稀なタイプの癌と考えられていましたが、2014年以降新たなホルモン治療薬の登場したことにより、治療誘導型神経内分泌癌の頻度が増えてきました。しかしながら、NEPCに対する有効性が示された診断・治療方法は確立されておられません。そのため、分子メカニズムの解明、新規治療戦略の確立が課題となっております。

そこで前立腺癌、神経内分泌転化の特徴を解明すべく、2016年1月1日から2021年12月31日までに当院および神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野、またその関連施設で病理学的にNEPCの診断を受けた症例で、診断に用いた生検検体を解析することで、遺伝子的な特徴や予後との関連性を探索する研究を実施することといたしました。

2. 研究期間

この研究は、研究機関の長による研究実施許可日から2024年3月31日まで行う予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・2016年1月1日から2021年12月31日までに当院および神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野、またその関連施設で病理学的にNEPCの診断を受けた全ての症例を対象とする。
- ・患者基本情報:年齢、性別、組織分類、既往歴、ECOG(Eastern Cooperative Oncology Group) PS(Performance Status)(患者さんの全身状態を日常生活動作のレベルで評価したもの)、リスク分類、前治療内容、転移巣の有無、合併症の有無について
- ・前立腺癌の診断時、または治療経過中に撮影した単純あるいは造影CT画像、MRI画像、骨シンチグラフィ画像。
- ・採血時に採取した血液標本(Hb、赤血球数、リンパ球数、血小板、CRP、アルブミン、カルシウム、PSA、CEA、Pro-GRP、NSE、テストステロン)
- ・検体に関しては、郵送でFoundation Medicine, Inc.(USA)に送ります。

4. 個人情報の管理方法